

2022 年度 活動報告書



甲南大学 社会連携機構 地域連携センター
学生コーディネーター「なんティア」

目次

1. KOREC 学生コーディネーター「なんティア」2022 年度の活動概要.....	2
2. 全体的な取り組み.....	3
(1) 研修.....	3
(2) CHIIKI (地域) × GAKUSEI (学生) マッチングイベント 2022	4
(3) 関西学院大学ボランティア活動支援センターとの交流.....	5
(4) 甲佛龍立研修交流会.....	6
(5) 学生ピア相談活動.....	7
(6) 全体広報活動.....	8
3. 各チームの取り組み.....	9
(1) コーディネーションチーム.....	9
(2) 広報チーム.....	10
(3) 企画チーム.....	11
(4) 地域連携チーム.....	12
4. 活動を振り返って.....	13
(1) 年間スケジュール.....	13
(2) メンバーのコメント.....	14
(3) 2022 年度メンバー一覧	18

1. KOREC 学生コーディネーター「なんティア」2022 年度の活動概要

「なんティア」とは、甲南大学 社会連携機構 地域連携センター(KOREC：コレック)の学生コーディネーターのグループ名です。「なんティア」では、KOREC の教職員と協力しながら、学生と地域団体をつなぐボランティア活動に取り組んでいます。

2022 年度のグループの目標は「知名度向上、輪を広げる、ハードルを下げる」を掲げました。「知名度向上」は KOREC の甲南生の利用者を増やすこと、「輪を広げる」はチーム力を強化し地域との関わりをつくること、「ハードルを下げる」はボランティアに参加しやすい環境をつくることを目指すこととしました。

今年度は新型コロナウイルスの感染症対策が緩和され、全ての定例会やイベントは対面で開催することができました。前後期それぞれ春の研修と秋の研修を経て、ボランティアやボランティアコーディネーションについて理解を深めたうえで、NPO 等の地域団体と学生のマッチングイベントにおいてファシリテーターを担いました。後期には、学生コーディネーターによる甲南生のボランティア活動についてのピア相談に取り組みました。また、関西学院大学ボランティア活動支援センターに視察訪問したり、龍谷大学ボランティア・NPO 活動センター、および佛教大学社会連携センター学生ボランティア室との研修交流会を新規に開催しました。

さらに、①コーディネーションチーム、②企画チーム、③広報チーム、④地域連携チームの4つのチームでは、それぞれ次のような事業に取り組みました。①コーディネーションチームは、ボランティア相談会の出張イベントを新規に開催、②企画チームは、甲南生と参加する NPO でのボランティア活動を新規開催、③広報チームは、なんティアの公式 Instagram「nangram (なんグラム)」を新設、④地域連携チームは、手描きのボランティア活動紹介冊子「voluncheer (ボランチア) ガイド」を作成しました。それぞれ新規事業に取り組む実り多い一年となりました。

運営面では、週 1 回の定例会のほかに、週 1 回の幹部ミーティングを代表 1 名・副代表 1 名、チームリーダー4名、他 3 年生メンバーも加わって実施し、今後の進捗について話し合いながら、進めました。現在、計 20 名のメンバーが活動しています (2022 年 12 月現在)。



秋の研修「企画づくりワークショップ」の様子 (2022 年 10 月 12 日撮影)

2. 全体的な取り組み

(1) 研修

概要：活動に取り組むうえでの基礎研修を実施した。会場は、いずれも甲南大学岡本キャンパス 11201 講義室（以下、敬称略）にて開催した。

①春の研修

- ・日時と参加者数

※時間はいずれも 16 時 20 分～17 時 50 分

(1 回目) 2022 年 5 月 18 日（水）、参加者数：18 名

(2 回目) 同年 6 月 8 日（水）、参加者数：20 名

(3 回目) 同年 6 月 22 日（水）、参加者：17 名

(補講) 同年 7 月 8 日（金）、参加者：5 名

- ・講師：地域連携センター フェロー 岡村 こず恵
(全学共通教育センター 特任准教授)

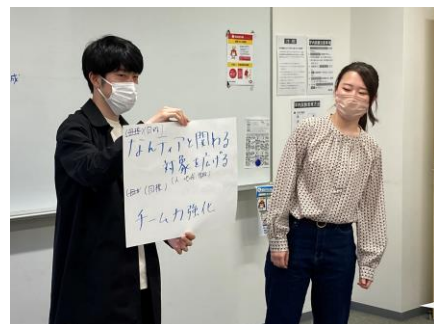
- ・内容：

(1 回目)「オリエンテーション、目標決め」

(2 回目)「企画のブラッシュアップ」

(3 回目)「講義；地域連携・ボランティア活動とは」, 「CHIIKI×GAKUSEI」企画説明

(補講)「ボランティアコーディネーションとは」(学生ピア相談の先行開催のため)



春の研修の様子
(2022 年 5 月 18 日撮影)

②審査会 (企画提案)

- ・日時：2022 年 6 月 15 日（水）16 時 30 分～18 時 00 分

- ・参加者数：18 名

- ・内容：各チームによる企画のプレゼンテーション

(講評)・地域連携センター 参与 阿部 真大 (文学部 教授)

- ・地域連携センター 課長 松下 賢一

③秋の研修

- ・日時と参加者数 ※時間はいずれも 16 時 20 分～17 時 50 分

(1 回目) 2022 年 10 月 12 日（水）、参加者数：17 名

(2 回目) 同年 10 月 19 日（水）、参加者数：17 名

- ・講師：地域連携センター フェロー 岡村 こず恵 (全学共通教育センター 特任准教授)

- ・内容：

(1 回目)「ボランティアコーディネーションについて」 / 「学生ピア相談について」 /

(2 回目)「メールの書き方について」 / 「ボランティアプログラムづくりについて」

④成果発表会および交代式

- ・日時：2022 年 12 月 21 日（水）16 時 30 分～18 時 00 分

- ・参加者：学生 18 名，教職員 5 名

- ・内容：各チームの成果報告／代表・副代表の交代式

(講評)・地域連携センター 所長 石川 路子 (経済学部 教授)

- ・地域連携センター 課長 松下 賢一

(執筆：高田 侑磨)

(2) CHIIKI(地域)×GAKUSEI(学生) マッチングイベント 2022

◆概要：地域連携センター(KOREC；コレック)が主催する「CHIIKI(地域)×GAKUSEI(学生)～マッチングプロジェクト 2022～」のファシリテーターを担った。

- ・日時：2022年7月2日(土) 10時～12時
- ・参加者数：51名
(内訳)・地域団体 13団体 19名
 - ・一般学生 20名 (一般学生 12名+学生コーディネーター 1年生 8名)
 - ・学生コーディネーター 2年生以上 12名
- ・会場：甲南大学岡本キャンパス 5号館 3階 サイバーライブラリー共同学修エリア

◆活動内容

ボランティア活動に関心がある甲南生と、甲南生のボランティア受け入れに関心のある地域のNPO等とのマッチングイベントである。昨年はZoomを用いたオンライン形式で開催されたが、2022年度では対面形式で実施した。2～3団体の地域団体と数名の学生で5つのグループに分かれて、お互いの知り合うセッションを実施する。「印象に残る一言」を用いた学生による自己紹介のあと、地域団体より活動内容や団体の魅力、甲南大生に参加して欲しい活動などの説明が行われる。15分のセッションを終えると、合図に従って学生は次のグループに移動し、同じプロセスを5回繰り返した。当日は参加者同士の「対話」や「お互いを知り合う」ことを目標とし、深い相互理解を促すため「なんティア」が進行や板書に取り組む等、小グループのファシリテーションを担った。

◆振り返り

イベント後に行ったアンケート結果からは、参加した地域団体・一般学生の9割から「満足・大変満足」との回答が得られた。私たちはファシリテーターとして、話し合いの内容を板書し、要点を可視化するなどして、地域団体と学のが「対話」づくりを心掛けた。特に、イベント後半は緊張もほぐれ、地域団体と学生が活発に交流する姿を見ることができた。

一方で、地域団体からは「どのようなスタイルで行うかのイメージが掴みにくく、冒頭に配布した説明書を事前に配布してもらいたかった」、「質問の時間がもう少し取れれば…」などイベント運営に関する意見があった。今後の運営に生かしていきたい。



セッションの様子



ファシリテーターによる進行・板書

(執筆：川村 美夢)

(3) 関西学院大学ボランティア活動支援センターとの交流

概要： 関西学院大学ボランティア活動支援センターの学生コーディネーター（以下：関学学生 C0）と、関西学院大学上ヶ原キャンパスにて交流会を開催した。

- ・日時：2022 年 10 月 1 日（土）9 時 30 分～11 時 30 分
- ・場所：関西学院大学 H 号館 302 教室、ヒューマン・サービス支援室
- ・参加者数：計 40 名（内訳：関西学院大学・NP0 活動センター10 名、同大学職員 2 名、甲南大学生 16 名、同大学教職員 2 名）

◆交流会の内容

交流会では、まずアイスブレイクを行い、「共通点探し」を通して互いの仲を深めた。次に、双方の学生 C0 の活動紹介を行った。関学ボラセンは、2000 年に設立され、「上ヶ原キャンパス」、「西宮聖和キャンパス」、「三田キャンパス」の 3 つのキャンパスにて、計 50 名程の学生スタッフが活動している。主に、ルーティン活動であるコーディネーションの他に、イベントの企画運営、広報活動など様々な取り組みを行っている。特に、ボランティア啓発イベントの企画運営を積極的に行い、ボランティアの魅力を発信している。また関学学生 C0 の特徴として、学生スタッフがチーム外での活動内容を自由に企画している。これまで学生 C0 のロゴの作成やボランティア見学ツアーの開催などを行うなど、所属人数が多いからこそその興味深い取り組みを知ることができた。

交流会後半では、実際にヒューマン・サービス支援室を見学し、コーディネーションの流れや相談に訪れやすい空間づくりの工夫などの説明を受けた。



交流会の様子



ヒューマン・サービス支援室見学の様子

◆振り返り

今回の交流会で得た学びを活かし、後期の活動では、「学生コーディネーターの名札導入」、「なんティアのアイコンづくり」、「ピア相談イベント」、「ボランティア活動参加の促進」など、これまで以上に新たな取り組みに挑戦した。

（執筆：田村 百花）

（４）甲佛龍立研修交流会

概要： 龍谷大学ボランティアセンター（以下、龍大ボラセンと記す）、および佛教大学社会連携センター学生ボランティア室（以下、佛教ボラ室と記す）、立命館大学サービスラーニングセンターの学生コーディネーター（以下、立命 SLC と記す）との研修交流会を通じて、他大学と「つながり」をつくり、情報を共有した。

・日時：2022 年 11 月 27 日（日）13 時 00 分～18 時 00 分

・参加者数：計 25 名

（内訳：龍大ボラセン学生スタッフ 9 名、佛教ボラ室学生スタッフ 8 名、立命 SLC 学生コーディネーター 1 名、甲南大学学生コーディネーター 7 名）

・場所：佛教大学紫野キャンパス
（オンライン併用）



研修交流会後の集合写真
(2022 年 11 月 27 日撮影)

◆交流会の内容

はじめに、甲南生が企画を担当したアイスブレイクを 4 大学混合のグループで行い、「6 マス自己紹介」や「曲当てゲーム」を通して仲を深めた。次に佛大生が企画した、ボランティアに対する経験や価値観を共有するワークを行った。事例をもとに、①子どもに関するボランティア、②高齢者施設でのボランティアで想定されるトラブルの対応方法について意見交換した。各々のボランティア経験を織り交ぜながら、ボランティアの難しさや面白さを再確認できる時間となった。龍大生の企画では、普段ボランティアセンターで取り組んでいるボランティアコーディネーションの模擬実演をして、一人ひとりが「コーデ・フローチャート」を作成してコーディネーションの練習に取り組んだ。

◆振り返り

交流会終了後に行ったアンケートでは、各大学の企画の満足度において、5 段階中 5 と回答した人が 7 割を超えた。また、すべての人が次回の開催があれば参加したいと回答しており、非常に充実した交流会となった。

以下、アンケートより感想を抜粋する。

- ・「自分の経験のない分野のボランティアの事情を聞くことが出来、新たな気づきを得る良ききっかけとなった」
- ・「今まで相談者と話すことをメインにコーデを行っていたが、団体さんの理解やボランティアについての理解を深めてコーデをしようと思う」
- ・「今回をきっかけに他大学との交流が続いて欲しいと思います」

今回築いた「つながり」を今後も存分に活かしていきながら、学生コーディネーター活動への熱意を一層高めて取り組んで行きたい。

（執筆：松居 ももか）



研修交流会の様子
(2022 年 11 月 27 日撮影)

（５）学生ピア相談活動

◆概要

：ボランティア活動について、地域連携センターに相談に来た学生を学生コーディネーター（以下学生 C0）がサポートする。

- ・日時：2022 年 10 月～12 月
- ・学生 C0 参加人数：のべ 42 回
(前年度比 29 回増, のべ 52 人参加 (同 33 人増))
- ・対応者数数：10 名 (2022 年 12 月 31 日時点)
- ・場所：地域連携センター



学生ピア相談の様子
(2022 年 10 月 26 日撮影)

◆主な活動内容

学生 C0 が昼休みと 4 限の時間（不定期）に地域連携センターに在籍し、地域連携センターに訪れる甲南生にボランティアに関する情報提供を行った。地域連携センターに訪れた甲南生に対して、学生 C0 自身が実際に体験したボランティアの経験談を交えながら話すことや、学生来所者と同じ学生であるという対等（ピア, peer）な関係を持って対応することで、地域連携センターに来所した学生のボランティア活動や地域連携活動への参加の促進をめざしている。さらに、学生 C0 自身もボランティアのコーディネーションを行うことにより、新たにボランティアに関する知識や経験を得ることができる。

学生ピア相談活動に参加した学生 C0 は、コーディネート日誌に活動の引き継ぎ事項や感想、検討事項を記録した。また、11 月からはコーディネート日誌に記した検討事項を、定例会にて隔週で学生 C0 全体に共有し、改善策を話し合った。その結果、次の点を改善した。

- ・地域連携センター事務室前の情報共有スペースに、相談コーナーを設置した。
- ・4 限に加えて、昼休みにも開設した。
- ・学生 C0 の名札を作成した。
- ・学生ピア相談の看板を増設し、掲示の工夫をした。
- ・地域連携センターの LINE やなんティアの Instagram「なんグラム」等のポップ掲示を作成・設置した



ピア相談の看板
(2022 年 10 月 13 日撮影)

◆振り返り

コーディネート日誌をつけ、定例会にて検討する時間をもったことで、気づきをすみやかに改善につなげることができた。以下、感想や問題点をコーディネート日誌より一部抜粋する。

- ・「来所した学生さんに自分の経験談を話せて良かった。もっと詳しくボランティアについて話せるように経験を積んでいきたい」
- ・「来場者がいない時間も、地域連携センターの職員さんと話すことが楽しかった」
- ・「来所者が少なく寂しいので、宣伝を工夫すべき」

来所者が少ないという大きな問題を認識する一方で、地域連携センター事務室の職員との交流が増えたり、学生コーディネーターの基本の活動としての相談活動の重要性を再認識できた。

(執筆：阪本 萌衣)

(6) 全体広報活動

概要：「なんティア」の活動を紹介するウェブサイトの新設した。また、活動全般についてウェブを中心に広報した。

1) 【新規】「なんティア」紹介ページの新設

主な内容：団体概要、主な活動内容、学生コーディネーターになるには、連動した学びなど

2) 活動全般について情報発信

◎掲載媒体：KOREC ウェブサイト「活動報告」／甲南 Ch. (カテゴリ：「地域連携」)

◎内容：

- ・2022年6月10日：「KOREC 学生コーディネーター「なんティア」の2年目の活動が始まりました！」(佐々木 千菜津)
- ・6月13日：「甲南大学生×岡本商店街#岡本ぶらら# 配布開始しました！」(川村 美夢)
- ・7月27日：「新たな出会いときっかけ作り ～マッチングイベントを開催しました！」(松居 ももか)
- ・11月16日：「関西学院大学と学生コーディネーター交流会を行いました！」(竹本 夏梨)
- ・2023年1月12日：「2022年度の活動に関する評価と次年度に向けて」(佐々木千奈津)
- ・1月13日：コーディネーションチーム「イベント『ボランティア情報展示・相談会』を開催しました！」(阪本 萌衣)
- ・1月13日：地域連携チーム「ボランティアの魅力を伝えるために」(森川 遥菜, 弘中 美緒)
- ・1月17日：広報チーム「KOREC 認知度増大に向けて」(中嶋勇介, 竹本夏梨)
- ・1月16日：企画チーム『甲南生と一緒に参加しよう！』ボランティアプログラムを実施しました！」(日比野 令旺、尾上 七海、佐々木 麻那)

※【参考】個人のボランティア活動結果を地域連携センターのウェブサイトで発信した。

◎内容：

- ・10月3日：「『自ら工夫する』ことにやりがいを実感」(上間 拓人)
- ・10月13日：「チーム里浜づくりの活動に参加してきました！」(高田 侑磨)
- ・10月13日：「「ちっちゃなアーティスト活動」に参加しました！」(北川 詠子)
- ・10月15日：「えびす本山でのボランティア活動」(松居 ももか)
- ・11月30日：「人との繋がりの実感」(佐々木 麻那)
- ・11月30日：「あまあまタウンのボランティアに参加しました！」(森川 遥菜)
- ・12月7日：「はぐねっとひがしなだのボランティアに参加しました。」(弘中 美緒)

(執筆：日比野 令旺)

3. 各チームの取り組み

(1) コーディネーションチーム



ボランティア情報展示・相談会にて
(2022年11月22日撮影)



来場者にボランティア募集情報を案内
(2022年11月22日撮影)

私たちコーディネーション班は、ボランティアに興味がある人・何か新しいことにチャレンジしてみたい方の第一歩をお手伝いすることを目的に、「ボランティア情報展示・相談会」というイベントを実施した。チームメンバーは阪本萌衣、牧風花、松永咲紀、藤本心菜の計4名で活動をした。

取り組み内容は、①現在募集しているボランティア団体に関する情報収集、②学生に対して行うボランティア相談会である。①に関しては、地域連携センターにてボランティアに関する情報を収集し、要点をまとめたポップを作成した。②に関しては、①で作成したポップを展示し、学生スタッフ自身の経験も交えながらボランティア相談会を行った。

◆成果

今年度の成果は次の通り。

- ・「ボランティア情報展示・相談会」開催（参加者7名）
- ・学生ピア相談の円滑な運営および改善

◆評価

- ・参加者アンケート「満足」が100%（回答数7）
- ・イベント型にすることで、平時のピア相談より学生の参加者が増えた。
- ・ピア相談の回数が増えた。のべ42回（前年度比29回増）、のべ52人参加（同33人増）。

◆今後の課題

今後の課題は、地域連携センターへの来所者を増やすことである。今年度はその手段の1つとして、出張型ボランティア相談会として「ピア相談イベント」を開催した。7名の参加者があり、ボランティア活動やボランティアサーティフィケート等の情報を提供した。参加者のうち事前申込みがあったのは1人のみであり、新たな課題が見つかった。来年度は、事前申込者に事前連絡をする、イベントの規模を拡大する、宣伝方法や開催場所を工夫するなど改善をしたい。イベントを通じて知名度の向上をめざすとともに、C0同士でピア相談の練習を重ね、ボランティアコーディネーションの質の向上に努めたい。



(2) 広報チーム



定例ゼミでの様子
(2022年11月16日撮影)

私たち広報チームは、甲南大生のボランティア参加者数を増やすことを目的に、ボランティア情報や「なんティア」の活動内容の発信に取り組んでいる。メンバーは、佐々木千菜津、田村百花(通年休み)、中嶋勇介、竹本夏梨、酒井菜緒の計5名で活動をした。

取り組み内容は、「なんティア」および KOREC の知名度を高めるための広報活動である。今年度は、公式 Instagram の新設や KOREC の道案内の動画制作など、私たちの活動の基盤となる広報を強化した。

◆成果

今年度の成果は、次の通り。

- ・なんティア公式 Instagram 「nangram (なんグラム)」
新設・運営、フォロワー数 37 件 (2022 年 11 月 17 日現在)
(2022 年 10 月 14 日開設、週 1 回配信)
- ・Instagram 「なんグラム」のマニュアル作成
- ・なんティアのロゴ制作 (投票によりデザイン決定)
- ・「なんティア」および「ピア相談活動」の PR ポスターの制作・掲示
(掲示場所：地域連携センター掲示板、大学自治会掲示板、デジタルサイネージ等)
- ・KOREC の道順紹介の動画制作 (約 90 秒、ウェブサイト版および Instagram 版)
- ・KOREC 公式 LINE の運営：毎週月曜日の配信 (隔週から毎週配信に変更)
配信数 101 (前年度比 8 件増) (2022 年 12 月 31 日現在)



「なんティア」のロゴ

◆今後の課題

SNS のアカウントを開設することで広報の手段を確立できたものの、そのフォロワー数や配信数を伸ばすこと、そして発信する情報を通して甲南大生の KOREC への訪問及びボランティア参加につなげることが大きな課題として挙げられる。今後も、SNS を中心とし安定的な情報発信を継続させる一方で、動画や SNS につながるまでの設計など甲南大生により認知してもらう広報活動が必要である。



「なんティア」および「学生ピア相談活動」
の PR ポスター

なんティア公式 Instagram
「nangram (なんグラム)」のアカウント
(2022 年 10 月 14 日開設)

(3) 企画チーム



チームメンバーの集合写真
(2022年11月9日撮影)

私たち企画チームは、「輪を広げること」と「ボランティア活動に参加するハードルを下げることを」目標に、日比野令旺、尾上七美、蜂谷心、北川詠子、佐々木麻那の計5名で活動した。

今年度は、①甲南生対象のボランティアイベントの企画・運営、②空のコンタクトレンズケースの回収に取り組んだ。

①は、はじめてボランティア活動に参加する甲南生が、一人で参加しにくいという声を聞いたため、学生コーディネーターと一緒に活動に参加する初心者向けのボランティアプログラムを企画した。「東灘子どもカフェ」にボランティア活動のニーズについてヒアリングしたところ、子どもクリスマス会にて運営のサポートを求めていることが分かった。そこで、子どもたちとの街の掃除、料理教室、クリスマスツリーの制作をサポートする甲南生のボランティアを募集するボランティアプログラムを企画した。

②は、使い捨てレンズ空ケースの回収活動「アイシティ eco プロジェクト」に参加した。来年度も引き続き回収活動を実施予定である。

◆成果

今年度の成果は、次の通り。

1. ボランティアプログラム「甲南生と一緒に参加しよう！ ～子どもクリスマス会ボランティア～」
－11月9日（水）：「東灘子どもカフェ」ヒアリング
－12月12日（月）～12月15日（木）

：参加者に対してオリエンテーションを実施

- －12月18日（日）：ボランティアプログラム実施
(一般参加の甲南生：3名)

2. 使い捨てレンズ空ケースの回収活動

- ・コンタクトレンズ空ケース 14.5 kg (約1万4500個) 回収 (2021年12月3日～2022年12月14日)

◆今後の課題

「なんティア」のメンバーと一緒にボランティア活動に参加する企画だったため、一般参加の甲南生が気軽にボランティアに参加できる機会を提供することができた。一方で、地域団体との連携は想像以上に調整の時間が必要であった。そのため、今後はスケジュール管理を徹底し、募集の機会を増やすなど、より多くの学生がボランティアに参加できる環境づくりをめざしたい。

◆ボランティアプログラムの流れ

時間	内容
10:00～10:30	集合・準備
10:30～11:00	街の掃除
11:00～13:30	料理教室・昼食
13:30～14:00	読み聞かせ
14:00～14:30	振り返り



ボランティアプログラムの様子
(2022年12月18日撮影)



コンタクトレンズ
空ケースの回収
(2022年12月14日撮影)

（４）地域連携チーム



レイアウトを検討している様子
(2022年11月2日撮影)

地域連携チームは、高田侑磨、川村美夢、松居ももか、上間拓人、森川遥菜、弘中美緒の計6名で活動した。昨年度の学生ピア相談活動の反省点として、相談に来た学生に対して的確に情報提供できなかったことが挙げられた。これは、私たち自身にボランティアの経験が不足していることが原因だと考えられた。そこで、私たちチーム全体のボランティア経験値ならびにコーディネーターとしての質の向上、学生の不安を取り

除くことを目標として、ボランティアを見つけるための冊子を作成した。冊子名は、

「volunteer×cheer（応援する）」をもじって、

「voluncheer（ボランティア）ガイド」である。

分野が偏らないように、また、学生の興味などをふまえて、「CHIIKI×GAKUSEI マッチングイベント」にて知り会えた3団体を掲載団体として選び、まずチームメンバー自身がその団体のボランティア活動に参加した。その体験を元に「voluncheer ガイド」を作成し、手描きで親しみをもてるデザインを採用した。

◆成果

- ・取材を兼ねたボランティア活動への参加メンバー（6名）
- ・「voluncheer ガイド」の作成（3団体分）

◆評価

以下に、チームメンバーの活動評価を記す。

- ・新たな分野のボランティアに挑戦するきっかけとなり、ボランティア活動への積極性も生まれた。
- ・ボランティア活動に参加したことで、チラシでは気づくことが出来ない活動の魅力を発見できた。また、魅力を学生に共有することで活動のイメージを明確に伝えることができた。
- ・ただ参加するだけでなく、取材を通して団体がどのような狙いや思いをもって活動されているかを学ぶことができた。
- ・自身がボランティアに参加したことで、活動の魅力をどう伝えるか、どんな情報を載せれば学生は安心するかなど、地域と学生を繋ぐコーディネーターとしての視点が鍛えられた。
- ・初めてのボランティア活動、取材やガイド作成を通して、ボランティア活動の魅力に気づき、自身のボランティア活動の参加に対するハードルも下がった。
- ・冊子を利用した人から感想を聞き、工夫できる視点を検討したい。

◆今後の課題

- ・「voluncheer ガイド」に掲載する団体の追加（蓄積の重要性）
- ・ピア相談での活用（相談対応にて冊子を使用した感想をアンケートとして集計する）
- ・冊子による効果の検証方法、作成マニュアルの制作



定例会の様子
(2022年11月2日撮影)



「voluncheer ガイド」内のページ

4. 活動を振り返って

(1) 年間スケジュール

【前期】

日程	曜日	予定
4月6日	水	新入生勧誘準備
4月13日	水	新入生勧誘準備
4月20日	水	チーム編成、新入生研修準備
4月27日	水	チームリーダー決め、交流企画の検討、新入生研修準備
5月11日	水	新入生歓迎会、研修
5月18日	水	春の研修①「今年度の目標決め」
5月25日	水	チーム活動の企画づくり
6月1日	水	チーム活動の企画づくり
6月8日	水	チーム活動の企画についてのプレゼンテーション資料の作成
6月15日	水	審査会（企画提案）
6月22日	水	春の研修②「ボランティア・地域連携とは」
6月29日	水	「CHIKI×GAKUSEI マッチングイベント」リハーサル
7月2日	水	「CHIKI×GAKUSEI マッチングイベント」
7月6日	水	マッチングイベントの振り返り、チーム活動
7月8日	金	春の研修・補講「ボランティアコーディネーションとは」
7月13日	水	チーム活動、夏季休暇中の活動の確認

【後期】

日程	曜日	予定
9月28日	水	アイスブレイク、視察の事前準備・質問検討
10月1日	土	関西学院大学ボランティア活動支援センター視察
10月5日	水	視察の振り返り、チーム活動
10月12日	水	秋の研修①「ボランティアコーディネーションについて」
10月19日	水	秋の研修②「メールの書き方／ボランティアプログラムづくり」
10月26日	水	チーム活動
11月2日	水	チーム活動
11月9日	水	チーム活動
11月16日	水	チーム活動
11月27日	日	甲佛龍立交流会
11月30日	水	チーム活動、報告書の書き方レクチャー、新代表・副代表の発表
12月7日	水	成果報告会の準備、報告書の作成
12月14日	水	成果報告会の準備、報告書の作成
12月21日	水	成果報告会&交代式
1月4日	水	次年度に向けて
1月11日	水	次年度に向けて、チーム編成、新チームリーダー決め

（２）メンバーのコメント

●今年度の活動に関する評価と次年度にむけて

「なんティア」代表 佐々木 千葉津（マネジメント創造学部３年生）

2022年度、私たちは「知名度を向上させる」、「輪を広げる」、「ハードルを下げる」を目標に活動に取り組んだ。まず、「知名度を向上させる」とは、「なんティア」の知名度を向上させること、次に「輪を広げる」は、地域との輪や「なんティア」と関わる人との輪を広げること、最後に「ハードルを下げる」は、ボランティア参加へのハードルを下げることを目指している。目標に対する評価方法は、「なんティア」メンバーにインターネットによるアンケート調査とした。評価基準は、各目標に対して４段階（１：全く達成できなかった、２：一部達成できた、３：予定通り達成できた、４：予定以上に達成できた）とし、回答率は90.0%（回答数18名）であった。

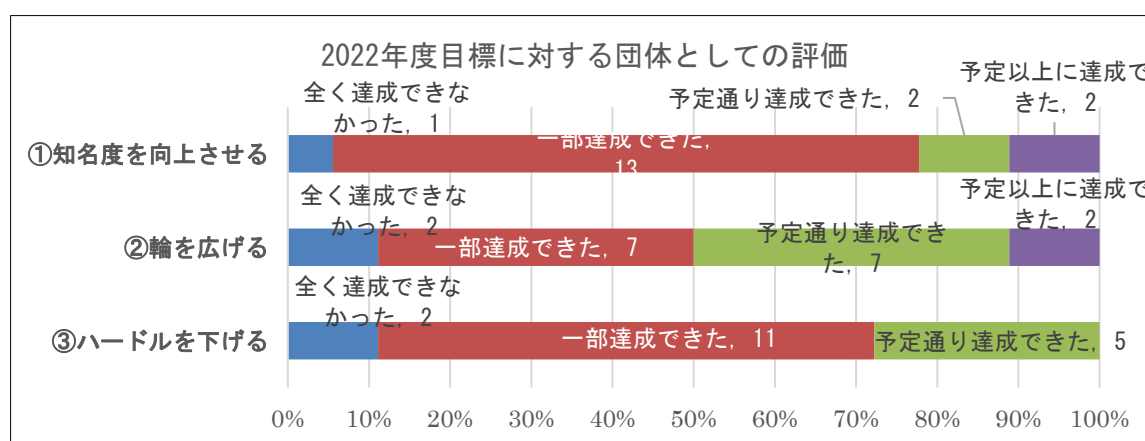


図1：2022年度の目標に対する団体としての評価

調査の結果は図1の通りである。まず「知名度を向上させる」に対しては、「一部達成できた」との回答が72.2%だった。イベントやピア相談の実施、SNSでの情報発信により、一定数の知名度を得た手ごたえがある一方で、「まだ周囲の友人などに知っている人がいない」という声もあり、甲南生に対して知名度を向上させることは課題を残した。

次に、「輪を広げる」に対しては、「一部達成できた」、「予定通り達成できた」との回答がともに38.9%だった。「イベントを通して地域団体との関係を築けた」、「他大学との交流など繋がりが増えた」など概ね高評価であったが、「輪を意識する場面がなかった」との意見もあった。

最後に、「ハードルを下げる」については、61.1%が「一部達成できた」と評価した。イベントの実施やボランティアの冊子作成、情報発信などハードルを下げるための活動に積極的に取り組んだが、ピア相談やイベントに参加する学生が少ないことから、実質的にハードルを下げられたとは言えない。

また、団体として「メンバーや教職員とコミュニケーションをどの程度はかかれたか？」については、55.6%が「できた」と回答したが、「もっとメンバーについて仲を深めたい」、「他の

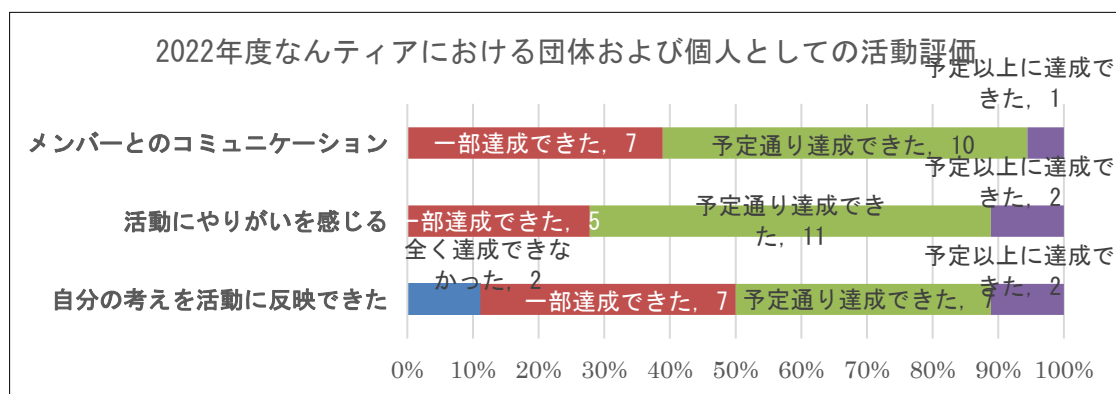


図2：なんティアにおける団体および個人としての活動評価

グループのメンバーの名前すらわからない」との意見もあり、メンバー内のコミュニケーションをさらに促進する必要があることが分かった（図2）。

さらに、「なんティア」での個人の活動について、「活動にやりがいを感じること」、「自分の考えを活動に反映すること」について、それぞれ自己評価をたずねた。「グループの人と協力して取り組む力が身についた」など個々のスキルアップができたなど個人でも成長することができたことが読み取れるが、意思疎通に課題を感じている人も複数おり、コミュニケーションがより活発に交わせるように工夫する必要がある。

以上、今年度自己の評価を行ったが、できた部分も多くある一方で、課題も発見できた一年であった。「なんティア」という団体は、個々が成長できる場であり、メンバー一人ひとりのつながりを強化することで、「なんティア」のさらなる活性化、そして甲南生への還元につながると考えられる。来年度は、これまでの活動の継続や新たなアプローチの仕方で、ピア相談の来訪者やイベントへの参加者が増えるなど、効果具体的で客観的な数値に示せるようにしたい。

●先輩の存在の大きさを実感し、新メンバーのチャレンジ精神が発揮された2年目

甲南大学 全学教育推進機構 全学共通教育センター／地域連携センターフェロー兼務
特任准教授 岡村 こず恵

KOREC 学生コーディネーター「なんティア」の活動は2年目をむかえ、初めて先輩がいるなかで活動に取り組みました。チームビルディング、企画づくり、外部団体との折衝など、活動2年目の経験を生かして、安定した運営体制をつくっていたようです。一方で、メンバーの6割は活動1年目だったにもかかわらず、すべてのチームが精力的に新規事業に取り組み、それぞれの手ごたえを得て、次年度に向けた課題も認識できています。今年度の目標の一つである「輪を広げる」は、「チーム力を強化し地域との関わりをつくること」でしたが、活動のふりかえりアンケートでは、「なんティア」内部でのコミュニケーションをもっと深めたい、との声が多数寄せられました。メンバーの結束は大切な要素です。次年度に向けて、内外ともにさらに活動を充実させましょう！

●活動を振り返って

今年では他大学との交流や学内への広報など「なんティア」の名前を広げる活動に取り組みました。その一方で、ピア相談の訪問者数に変化があまり見られず、知名度向上に関する活動は今後も積極的に行う必要があります。「なんティア」の名前がより広がることで、これまでの活動の成果が現れればと思います。 川村 美夢（地域連携チーム）	副代表として「なんティア」全体の運営に携わり、いろんな事を経験できた1年間でした。運営面で反省する所もありますが、チームの活動で地域のボランティア団体と連携したこと、全体で他大学とのつながりと築いたことなど、活動の幅を広げることができたと感じています。 日比野 令旺（企画チーム）
昨年度の反省を踏まえて、チーム内での意見交換を頻繁に行いました。反省点は、スケジュール管理が甘かったことです。ただ今年度は多くのイベントを開催し、なんティアが軌道に乗り始めたのではないかと思います。今後も様々な企画を通して、活気溢れる団体にしていってほしいです。 高田 侑磨（地域連携チーム）	今年度は授業の関係上、積極的に活動できませんでした。他大学との交流を通して、学生COとしての役割を見つめ直す良いきっかけとなりました。これからも今ある基盤を守りながら、さらに「なんティア」の活動の輪を広げていってほしいです。 田村 百花（広報チーム）
今年度は、対面でのイベントも多く団体としてアクティブに活動できました。代表としては、もっとメンバーの仲を深め、活動しやすい運営の仕方ができたのではと反省点もあります。来年度は、チームにとらわれずワンチームとして、「なんティア」活動を活発にしていってほしいと思います。 佐々木 千菜津（広報チーム）	活動2年目に突入し、昨年度の達成感と反省・課題をどのように活かすかを何度も考えた1年でした。今年度限りの成果にならないような役割分担・情報共有を意識し、幹部メンバーおよびチームサブリーダーとして主体的に行動出来たように思います。 松居 ももか（地域連携チーム）
コロナウイルスによる規制も緩和されて、去年よりも充実した活動を行えたと思います。チームリーダーとして活動に参加するにつれ、責任感が強くなり、自分自身の成長を感じました。次年度からもより良い「なんティア」作りに貢献していきたいです。 阪本 萌衣（コーディネーションチーム）	今年度からなんティアに参加しました。チーム活動では自分の意見を発言し、今年度の目標の「(参加の)ハードルを下げる」ことが出来るような、ボランティアのイベントを企画しました。参加者や子どもたちに楽しんで頂けて、私自身も心温まり、達成感を味わうことが出来ました。 尾上 七美（企画チーム）
今年から参加したため、全ての活動が新鮮でした。チーム活動では、任された役割を担うたびに達成感を味わうことができ、責任感が芽生えました。期限ギリギリに仕事をしていたことが反省点ですが、充実した活動を行うことが出来ました。 竹本 夏梨（広報チーム）	初めは自分に何が出来るのかとても不安でした。しかし、チーム活動でイベントの企画・運営に携わることができ、「なんティア」の一員として少しは貢献できた1年だったのではないかと感じています。 松永 咲紀（コーディネーションチーム）

初めてボランティアを紹介する立場になり、興味のある人がピア相談に参加してくれる方法を考えるのはとても難しく、イベントを開催するにしても情報が必要な人にもどう知ってもらうかが大きな課題となりました。今年初めて行ったコーディネーションチームのイベントは今後に繋がる大事な一歩だったので、参加できてよかったです。 牧 風花（コーディネーションチーム）	サブチームリーダーをさせていただけたことは、とても有意義な時間となりました。また新たな試みを提案して、それを実現するために様々な工夫を考え、運用できたことは、チームの大きな成果だと思います。来年さらなる向上ができるよう、頑張っていきたいと思います。 中嶋 勇介（広報チーム）
今年は自らのボランティア経験値を高め、発信することをテーマに取り組みました。ボランティア活動の参加や「ボランティアガイド」の作成によって、上記の目標は達成できました。来年は学生のニーズをくみ取る力をつけ、より学生に役立つ取り組みをしていきたいです。 上間 拓人（地域連携チーム）	ボランティアへの参加・ガイド作成といった初めての経験を通して、多くのことを学ぶことができました。そして、これらの活動は、自身の成長に繋がったと思います。今後もなんティアと自分自身がさらに成長していけるように活動していきたいです。 森川 遥菜（地域連携チーム）
なんティアに参加した当初はボランティアに対する知識が浅かったですが、講義やイベント、また自分のチームの企画を進めていく中で徐々に深めていくことができ、自分自身の成長に繋がったと思います。今後もさらに成長できるように活動していきたいです。 佐々木 麻那（企画チーム）	ガイドブックの作成にあたって、普段の大学生活では経験することができない貴重な体験をすることができました。また、ボランティアに参加することの価値や楽しさを知ることができました。この価値や楽しさを、多くの学生に知ってもらえるように今後活動していきたいと思います。 弘中 美緒（地域連携チーム）
昔から興味があったボランティアに関わる活動でイベントを開催できて、有意義な時間を過ごすことができました。またボランティア参加へのハードルの高さなどの課題をいかに解決するかを考える作業も、良い経験になりました。今年度得た知識や経験を生かしてボランティアの良さを広めていきたいです。 藤本 心菜（コーディネーションチーム）	学生コーディネーターという活動を通して、地域の方と関わることができ、とても良い経験になりました。ボランティアといっても色々な活動があることを知り、さらにボランティアに興味を持つようになりました。企画書や報告書の作成など難しいこともありましたが、この一年で様々な力を身に付けることができましたと思います。 北川 詠子（企画チーム）
今年度からなんティアに参加させていただきました。ボランティアをする意味や課題など多くのことを教えていただき、ボランティアについての知識が増え、今までの考え方が変わりました。念入りに計画し、実践することで、この1年で成長できたなと感じます。 蜂谷 心（企画チーム）	なんティアに参加した当初は、ボランティアの参加経験が無く、分からないこともたくさんありました。しかし1年を通して、チーム活動においては、書類作成などの基礎的なことから学び、自分の役割を果たしました。個人としては、ボランティア経験やピア相談への参加など、成長できた一年だったのではないかと思います。 酒井 菜緒（広報チーム）

(3) 2022 年度メンバー一覧

※在籍者数：20 名（2022 年 12 月末現在）（敬称略）

<幹部メンバー>

- ・代表：佐々木 千菜津（マネジメント創造学部 3 年生）
- ・副代表：日比野 令旺（文学部社会学科 3 年生）
- ・会計：高田 侑磨（経済学部 3 年生）
- ・データ担当：松居 ももか（経済学部 2 年生）
- ・全体広報担当：日比野 令旺（文学部社会学科 3 年生）

◆コーディネーションチーム

- ・リーダー：阪本 萌衣（法学部 2 年生）
- ・サブリーダー：牧 風花（法学部 2 年生）
- ・メンバー：松永 咲紀（文学部社会学科 2 年生）、藤本 心菜（法学部 1 年生）

◆広報チーム

- ・リーダー：佐々木 千菜津（マネジメント創造学部 3 年生）
- ・サブリーダー：中嶋 勇介（経営学部 2 年生）
- ・LINE 担当：田村 百花（理工学部生物学科 3 年生）、中嶋 勇介（経営学部 2 年生）
- ・メンバー：竹本 夏梨（文学部社会学科 2 年生）、酒井 菜緒（経営学部 1 年生）

◆企画チーム

- ・リーダー：日比野 令旺（文学部社会学科 3 年生）
- ・サブリーダー：尾上 七美（文学部英語英米文学科 2 年生）
- ・メンバー：佐々木 麻那（文学部社会学科 1 年生）、北川 詠子（経営学部 1 年生）、
蜂谷 心（経営学部 1 年生）

◆地域連携チーム

- ・リーダー：高田 侑磨（経済学部 3 年生）
- ・サブリーダー：松居 ももか（経済学部 2 年生）
- ・メンバー：川村 美夢（文学部社会学科 3 年生）、上間 拓人（文学部社会学科 1 年生）、
森川 遥菜（文学部社会学科 1 年生）、弘中 美緒（経済学部 1 年生）



甲南大学 社会連携機構 地域連携センター
KOREC 学生コーディネーター「なんティア」
2022 年度 活動報告書

制作 KOREC 学生コーディネーター「なんティア」
編集・発行 甲南大学 社会連携機構 地域連携センター
電話：078-435-2276
発行日 2023 年 2 月 20 日

